認知症の人とともに築く総活躍のまち 条例づくりを本人視点から



御坊市在宅介護支援センター藤田 玉置 哲也

御坊市について

●紀伊半島海岸部のほぼ中央部

●総面積: 43. 91km

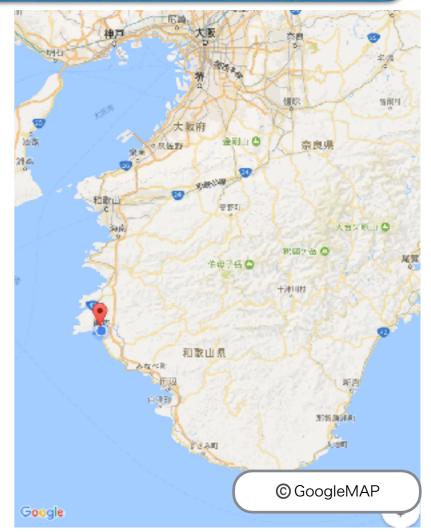
●日高川を境に河北、中央、河南エリアに生活圏域

河北:地元の方と移住の方が混在。

中央:官公庁や商業施設が集中。

河南:農業や漁業が盛ん。2世帯同居が多く残る

●昼夜間人口比率:115%



平成31年3月31日現在

総人口	65歳以上人口	高齢化率	日常生活圏域	認知症地域支援 推進員
23,397人	7,279人	31.1%	6圏域	7人
独居高齢者数	要介護認定者数 (第1号被保険者)	認知症日常生活 自立度 II 以上	第7期介護保険料 基準額	地域包括支援 センター数
2,298人	1,836人	1,146人	6,520円	1 (直営)

御坊市の自慢





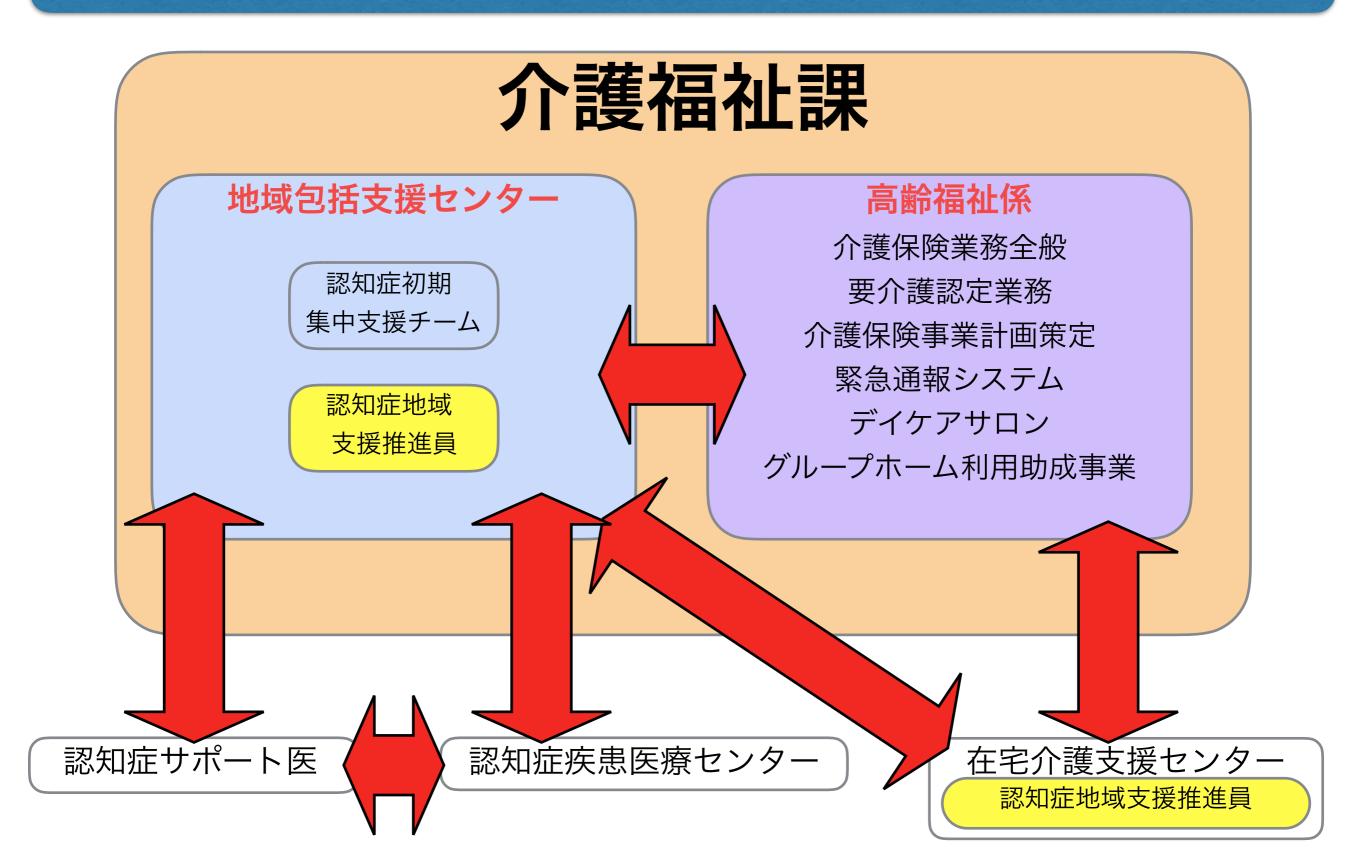








御坊市の認知症施策に関する組織図



これまでの御坊市の認知症施策

認知症地域支援体制構築 等推進事業(H21~22) 市町村認知症施策総合 推進事業(H23~25) 認知症総合推進事業 (H26~)

- ・「認知症コーディネー ター会議」発足
- ・認知症地域資源マップ
- ・高齢者安心サポート事業
- ・安心声かけ訓練
- ・キャラバン・メイト養成 研修
- ・認知症連携担当者配置

·認知症地域支援推進員配 置

- ・認知症疾患医療センター との連携体制づくり
- キャラバン・メイト中心のまちづくり組織結成
- ・若年性認知症の方への支援(1人の関わりから)

御坊市認知症ケアパス作 成→第6期介護保険事業計 画に反映させる

- ・認知症初期集中支援 チーム設置(H27_. 10 月)
- ・介護家族のつどい「ご ぼうホッとサロン」開設

今までの取り組みを継続しつつ、 総合的な取り組みに再構築

H28年度~「ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト」

推進員の役割って大変じゃないの?

認知症カフェの運営? 認知症サポーター養成講座の展開? 介護と医療の連携体制づくり? 認知症ケアパス作成?

事業をこなすことで精一杯・・でも、本人の思いってどうなの?

「私たち抜きに私たちのことを決めないで!」

行政から求められている推進員の役割

本人の声に耳を傾け、本人の視点に立ち、本人とともにこれからの暮らしを考える。 その先に、認知症になっても自分らしく暮らせるまちをつくるのために、多くの仲間 (本人含め)と地域づくりに取り組む。

本人視点の重視

認知症サポーターが たくさんいるまち? 認知症カフェが いっぱいあるまち?

認知症にやさしいまち

って、どんなまち?

誰もが見守って くれるまち?

"ならない"予防を 推進するまち?

本人たちが思う 「やさしい」は何なのか?

ある認知症の本人の言葉

「認知症の人を守る」と いいながら、私たちは 「当たり前」と「 さえも奪われました。

住み馴れた地域で これまでと変わらない 暮らしを

ごぼう総活躍のまちづくりプロジェクト

少子高齢化により人口減少が進む中、認知症の方や障害がある方でも、「総活躍分の1人」となれる社会を目指し、安心・安全に暮らせるまちづくりを5ヶ年計画で実施。(H28年 度~)

企画課:プロジェクトの企画調整

○健康づくり

健康福祉課:生活習慣病予防、健康意識普及啓発、食育推進

○生きがいづくり

商工振興課:語り部育成

社会福祉協議会:シルバー人材センター機能強化

認知症になっても 活躍できるまちって 素敵やん!

○地域づくり

介護福祉課:認知症地域支援を通じた活躍の場の創生

市の責務と使命、そして理念を条例に

「さまざまな場面で本人たちが地域で活躍している。認知症にやさしいまちって何なのか?誰もがより良い暮らしができる地域をつくるという市の責務と使命を表明するために条例をつくろう!」



介護福祉課長

課長の熱い思い

「支援する、してあげる」なんて思い上がった行政にはならないように、本人とともに条例をつくるんだ!

ワーキングチーム結成

御坊市のような田舎には、研究機関や学術機関などない。有識者会議なんてできないんじゃないか?でも、同じ思いの仲間がたくさんいる。認知症サポート医、医療機関、事業所、家族、そして本人。

認知症にやさしいまちづくり条例(仮) 作成ワーキングチーム結成

ワーキング会議メンバー

- ○市内在住の本人及び家族
- ○若年性認知症の本人、パートナー
- ○市内の認知症サポート医
- ○ケアマネジャー
- ○認知症対応型デイ管理者
- ○病院地域医療連携室相談員
- ○総務課 (法制担当)
- ○企画課 (総活躍のまちづくりP)
- ○介護福祉課(認知症地域支援推進員)



必要に応じて、日本認知症本人ワーキンググループ(JDWG) のメンバー等からもご参加・ご助言をいただく

JDWGの「認知症とともに生きる希望宣言」も参考に

行政内部でも横断的な連携を

ワーキングチームのメンバーには、 行政の立場として介護福祉課だけで はなく、総活躍のまちづくりプロ ジェクトの企画課、条例の法制担当 の総務課の職員にも参加要請。 形式的な人選(課長級等)じゃな く、実際の担当者を入れる!



企画課と総務課の強い味方!!

部署・立場を超えての連携 作成のプロセスを最初から共有

ワーキング会議実施

6月27日、第1回目の会議を開催。それぞれが思う「認知症にやさしいまち」について意見交換。

本人から出た意見

- ○「認知症の人」という見方をされるから、失敗を恐れ、隠そうとする。失敗してもいい、そんなことを気にしなくてもいい地域になるための条例を作りたい。○認知症になってもできること、少しでも役に立てることがある。そう思って地域に出ることができる。そういうことを伝えたい。
- 以後、全4回の会議を重ね、すべての会議に本人が参加。本人の意見をもとに条例の内容を検討。

地域の本人の声

各メンバーから、地域で暮らしている本人たちの声も 聞いてみたいと意見。地域に出向いてヒアリング。

市が条例つくってくれるのは嬉しい。これからの暮らしに希望が持てる。認知症になっても暮らしは変わらん。**認知症になることは怖くない**よ。 (在宅60代男性)

90歳過ぎたからといって見捨てないで!**90年生きてきた私だからこそ**できることがある。条例でそういうこと書いてくれれば、もっと頑張れる! (在宅90代女性) 認知症の人は、**誰もがなりたくてなった のではない**ということをすべての人が理解し、尊い人格を持った人間として人権を尊重してほしい。
(在宅90代男性)

地域のためにできることは何でもしたい。みんなの力になりたい。でも常に周りに人がいるとしんどいので<u>干渉し過ぎ</u>(過剰な介護)ないでほしい。
(グループホーム70代女性)

今までこうやって(行政等が)本人の声を聴いてくれることがなかった。 でも聴いてみると年齢に関係なく、一人ひとりが色々な思いを持っている。 こういう声を発信してくれれば、他に続く本人たちも出てくると思う。

一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ 藤田和子代表理事

「家族」について

本人の意見

- ○「本人と家族」を併記することはどうなのか。
- ○これまで、本人と家族を並べてこられたから、それぞれを天秤にかけられ、**結局本人の思いを言えず**、家族が代弁してきた。それが**私たちの思いじゃないこともある**。
- ○別に**家族をないがしろにするわけじゃない**。「家族」と明記しなくても、家族は色々やってくれるし、逆に「家族」と明記すれば負担に感じることもあると思う。
- ○家族のいない人、または様々な理由で家族より「パートナー」の存在の 方が大事な人もいる。だから「家族」と明記されると、その人たちは生き づらくなる。

家族の意見

○条例の目的からすると、**家族の声が入ると違う方向に広がってしまうかもしれない**。私たちの思いも入れてほしい気持ちはあるが、ここは認知症の人 1 本で通したほうがいい。

認知症の人の役割

条例に「認知症の人の役割」を明記

- ○認知症の人は、暮らしやすいまちを築くために、**自らの 希望、思い及び気づいたことを身近な人、市、関係機関等 に発信する**ものとする。
- ○認知症の人は、地域の一員として、**自らの意思により社 会参加及び社会参画**するものとする。

条例を見た本人の声

「私たちが、言っていいんだね。なんか、 色々とやりたいことが出てくるよ!」

認知症施策推進のための協議体に認知症の人の参加を位置づけ。

"やさしい"という言葉への違和感

認知症にやさしいまちづくり条例



やさしいって言われると、自分たちは支援される、 守ってもらう立場だと感じる。

認知症の人とともに築く総活躍のまち条例

条例づくりを通じて

○条例づくりを通じての意見

JDWG 代表理事 藤田和子さん

御坊市の条例づくりは、<u>私たちJDWGが目指す社会の実現</u>が可能だと示してくれた。

条例づくりに参加した本人たち

行政主導ではなく、研究者や学者たちがつくったものでもなく、まちがいなく私たちの言葉でつくった条例。これからも地域の一員として活躍していきたい。

将来的に「認知症の人」と区別しない地域、そしてこの条例が 必要ない地域になればと願います。(本人たちより)

認知症の人の役割ってどんなことなの?

ごぼうホッとサロン処









「銭湯」で本人が気づき、そして活躍!

●本人

「シャンプーとか石鹸(ボディソープ)とか、どれがどれなのかわからへん。**もっとわかりやすく"頭"、"体"、 みたいに書いてくれたら**、間違わへんと思うよ」



その声を聞いた推進員が銭湯に伝える

●銭湯側

「実は、スタッフ間でも、**お客様が容器を間違って いるのを見て何か解決策がないのか**と話していたの です。貴重なご意見ありがとうございます!」

子どもから大人までわかりやすく!





間違う人が激減!

認知症の人の視点から、ユニバーサルデザインに!

郵便局に行こうと思って道に迷っている人が・・ 「こっちから見たら郵便局わからへん」



いつもの道から



こっちから見たら・・・



郵便局に行こうと思って道に迷っている人が・・・「 「こっちから見たら郵便局わからへん」





「こうなればいいな!」 本人の声から、住みやすい地域を提案していこう!

市内の郵便局長と意見交換

市内の郵便局と「高齢者等の見守り協力に関する協定」を締結していることもあり、懇談会の際に今回の事例を本人視点からの動画を見ていただきながら紹介。



郵便局側

確かにこれはわかりにくい。<u>認知症の方だけじゃなくて、ドライ</u> バーにも〒マークあるとわかりやすいね。持ち帰って検討します!

〒マーク実現に向けて

局長から嬉しいお知らせが!

「早速、局内で共有しました。 必要性が認められて、現在予算 要求中です。エンブレムタイプ か、壁にペイントするか等を検 討して、近いうちに実現したい と思います!」



この手書き案が実現!?

小さなことの積み重ねが

認知症バリアフリー

※首相官邸HP「認知症施策推進大綱」

の実現に向けての一歩

又になるけ かたいと思う

本人の声を聞く、ということがそれほどハードルが高いことなのか?実は地域づくりにおいて、本人の声を聞くことが一番シンプルな方法なのではないか。

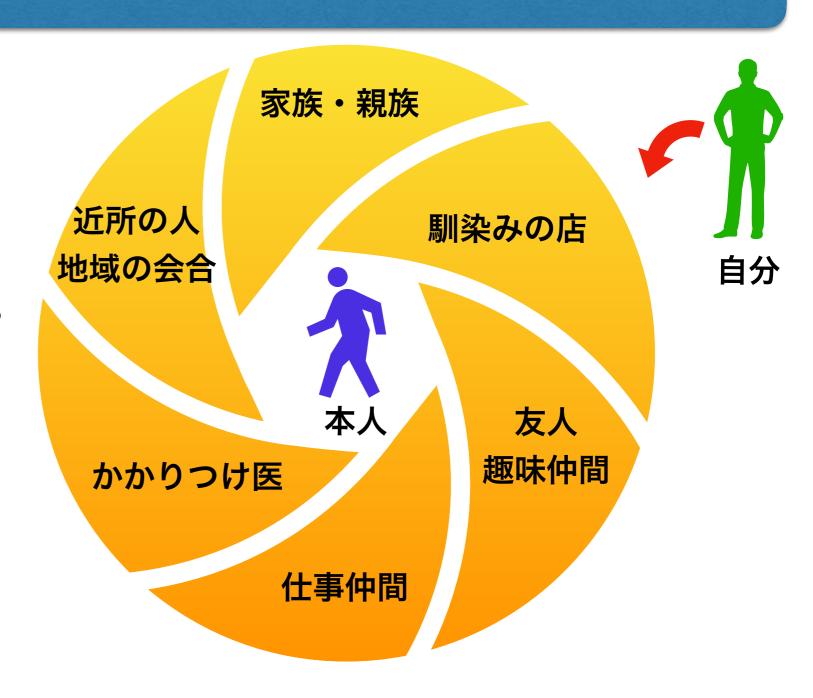
NHK厚生文化事業団「認知症にやさしいまち大賞」 受賞団体への表彰状を御坊市在住91歳の認知症の女性が筆耕

当事者とすべての人達が自ら住む町、 としに安心してよりよう 元配的な取り組みとしてな 西山さんから始まった地域 価されました 华成二十年二月十分 認如症七百万人 专委員 いくための

巻き込む?巻き込まれる!

誰が中心?

「巻き込む」という表現は、 自分(推進員)が中心となっ て風を起こしているイメージ。 「本人が中心」となって吹い ている風に「巻き込まれる」 ことも、ありなんじゃないか な?



「巻き込む」とうまくいかないことも・・・ 「巻き込まれる」と、自身の(が)新たな資源に。

認知症地域支援推進員のみなさまへ

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを、**自分ごと**として考えてみましょう。でも、**自分ごとって何??**

認知症になったら・・・というより、自分がこれから、住み慣れたまちでどういう暮らしを送っていきたいか。

そのために、ひと足先に認知症になった方々の声を聴く。

「<mark>家知症の人に」ではなく、「認知症の人と」何ができるか</mark>。 まずは1人でいいから、その人から始まる繋がりを大事に。

仲間とともに、認知症になっても、希望を持ち、誰もが活躍できる地域をつくっていきましょう!







認知症の人とともに築く総活躍のまち"ごぼう"

